

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.851 2025

2025年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



第56回全国YMCAリーダー研修会

OPINION

YMCAとSDGs

——「YMCA史学会」第104回 定例会 発題より——

上智大学名誉教授 田中 治彦

2016年にSDGs（持続可能な開発目標）が始まって10年が経ちました。日本では、学校をはじめ行政、企業でもすっかり浸透し、その周知度は9割に達しています。しかし学校等で聞いてみると、実際に行動に移されていることと言えば、節約やリサイクルが中心で、「SDGsを学習したもの、何をしてよいのかわからない」といった実態もうかがえます。

世界的には、途上国における貧困人口の減少や、乳児死亡率の低下など保健医療分野での成果があがっています。日本の「母子手帳」が途上国の乳児死亡率の減少に役立ったり、「蚊帳^{かや}」の普及でマラリアが減った等の報告もあります。全体として、17の目標の達成度は2～3割程度。気候変動や平和など、未達成の目標をあと5年で達成することは難しく、SDGsの残された課題は2030年以降も継続されると言われています。

今後のSDGsを考えていく際に私は、「つなぐ」がキーワードになると考えています。たとえば海の生態系を守ることは、その源流となる森林環境とつながっています。そして海も森林も、観光業などの産業と無関係ではありません。17の目標は相互に関連し合っているのです。

学校教育でいえば、理科、社会、英語、家庭科などすべての教科に関わるのがSDGsです。これまでは、産業は社会科、自然環境は理科と個別の教科で教えてきましたが、教科間をつなげるカリキュラム・マネジメントが必要です。産業の発展と貧困問題、健康、地球環境をつなげて考える。そのジレンマに向き合い、未来をトータルに考える、子どもたちが将来を構想するという発想が必要です。行政も同じです。健康福祉課、環境課、産業振興課などの部局間の提携が必要です。NPOも団体間の協力が求められます。

ところでYMCAは、環境教育、国際協力、人権など、17の目標のすべてに関わっている団体です。内部で連携して、その総合力を生かせば、「つながる」モデルを提示できるのではないのでしょうか。

そもそもYMCAは1970年代から国際協力募金を行い、開発問題や貧困、環境教育、平和教育などにいち早く取り組んでいます。1982年には現在の「開発教育協会」が、日本YMCA同盟を事務局として発足しました。私自身も当時、東京YMCAでボランティアリーダーをしており、国際理解講座をシリーズで企画したことがありました。その後も「地球市民育成プロジェクト」など、地球市民意識とリーダーシップを育成するプログラムを生み出し、若者が地域と世界の課題に関わる支援をしてきました。こうしたYMCAの動きが、今のSDGs教育の原型を作ったと言っても過言ではありません。今、世界のYMCAが取り組んでいる「Vision2030」もSDGsと連動したものですし、そのビジョンはSDGsとほぼ一致しています。今後もYMCAが世界のSDGsをリードしていくことが期待されます。

同時に私が危惧しているのは「反SDGs」の動きです。米国はパリ協定から離脱しましたし、日本でもSDGsへの支持を公言しない政党が出ています。SDGsと親和性の高いYMCAは今後、SDGsを推進するだけでなく、反SDGsに対して発言する役割も担わねばならないでしょう。私は危機感とともに、YMCAの今後の活動に期待しています。（まとめ・編集部）

※「YMCA史学会」は1997年、YMCA史研究のため有志によって発足。YMCAの事業活動、人物、組織など、多様な研究を行っている。現在は会員約50名。年4回の例会で発表し、その記録を会報として発行している。事務局は東京YMCA内（Tel 03-6302-1960）

もっと学びたい方は

「新SDGs論
現状・歴史そして未来をとらえる」
田中治彦著
（人言洞 四六判183頁 2,090円）



YouTube
「田中治彦のグローバルセミナー」

ガザ支援の動き、世界でも、日本でも

ガザへの攻撃開始から2年。この間、公式な連絡がとれずにいたガザYMCAですが、世界YMCAは8月8日、現地のスタッフや理事の声を聞くオンラインミーティングを開催し約100



人が参加しました。ガザ市内にあるガザYMCAは、かつてはスポーツや芸術など多彩な活動を行っていましたが、2023年12月に爆撃を受けて会館を喪失。その後は近隣のキリスト教会を拠点として、イスラム教徒を含む地域住民への食料支援などを続けています。

今もガザに暮らすガザYMCA理事のエリアス・アル・ジェイダさんは次のように語りました。「ほぼ毎日空爆があり、負傷者で溢れています。病院に行っても薬もなく、治療も受けられません。医師でさえ殺されています。路上にはゴミが山積みになり、病気や汚染が深刻化しています。飢餓は噂ではなく、現実なのです」。このミーティングの後、世界各地のYMCAはあらためてガザへの緊急募金を行い、1カ月で10万ドルを集め、トラック15台分の緊急食料支援を実施することができました。

日本でも、YMCAを含むパレスチナ支援に携わる主要NGOが合同で10月4日、東京で報告会とキャンドルイベントを開催しました。筆舌に尽くしがたい困難の中に置かれているガザの人々の現状が動画や証言を通して伝えられ、犠牲になった人々を悼む祈りが捧げられました。

今後も各国YMCAおよび他団体と協力しながら、ガザへの緊急支援、将来の復興支援のための募金を継続して実施します。

日本YMCA同盟 田附 和久



詳細はこちら

第51回 学生YMCA夏期ゼミナール ラップに挑戦、対話の力学

9月12日～14日にYMCA東山荘で「第51回全国学生YMCA夏期ゼミナール」を開催し、シニアを含む48名が参加しました。「分断の世界の中でいま、あなたと出会う」をテーマに、詩人でラッパーのFUNI氏と、在日大韓基督教会横須賀教会の金迅野牧師を講師にお招きしました。

FUNI氏によるラップワークショップでは、参加者が「心のど真ん中」の言葉を安心して語れる場生まれ、不安や喜び、怒りなどの生きた感情をリズムに乗せて表現し、本格的なレコーディングも体験しました。続く金牧師の聖書



研究では、排外主義が増す社会の中で「自分を愛するように隣人を愛せよ」という聖書の言葉を改めて学びました。他者との関係性の中で自分を知り、互いの「傷と傷を重ねあう」こと、他者の痛みを受け止め、応答することで分断を乗り越えていけるとの言葉は、皆が紡いだラップの言葉と共に参加者の心に深く刻まれました。また、参加者が思い思いのテーマで発題をする自主ゼミナールでは、茨城・盛岡・せとうちの都市YMCAのユースによる発題もあり、YMCAの多様な活動の様子が共有されるなど、大いに盛り上がりました。

参加者からは「自分を表現でき、他の人の自己開示も聞けて楽しかった」「分断はあらゆるところで起きているが、対話によって乗り越える可能性を感じた」との声が聞かれました。ここで共有された「体験」が、社会を変える希望につながることを感じる3日間でした。

日本YMCA同盟 福田 奈里子

デジタルな公平性をすべての人に アマゾン×YMCA IT学習支援を拡大



アマゾンジャパンと日本YMCA同盟は、これまで多様な環境に身を置く子ども向けに実施してきたIT学習支援をスケールアップし、「若者のデジタル・キャリアの形成」と「シニアのリスキングとQOLの向上」を支援する新たなプログラムを開始することとなりました。

両者は2019年からパートナーシップを組み、テクノロジーに触れる機会の少ない子どもたちにSTEM教育や、最先端のテクノロジーが使われているアマゾンの物流拠点見学を提供してきました。その数は、児童養護施設や困窮家庭、障がいのある子どもたちや外国にルーツを持つ子ども、災害被災地の子どもたちなど延べ10,000人にのぼります。

新たに開始するプログラムでは、テクノロジーに触れて体験するだけでなく、AIツールによる創造的な学習体験などを通して若者のデジタル分野でのキャリア形成、経済的な自立まで視野に入れて実施していきます。また、シニア層がIT技術から取り残され孤立、孤独に陥らず、再就職や地域でのボランティア活動など積極的に社会参画できるように一人一人の興味関心に合わせてチャレンジしていく計画です。いずれも指導には、YMCAの大学・高校生のメンターや、アマゾンの社員ボランティアがあたります。

10月5日には、都内のアマゾン本社でローンチイベントを開催。米国から訪れたアマゾン副社長（公共政策部門）は「単に使い方を教えるのではなく、テクノロジーを通じて世代間の架け橋を築き、誰もが活躍できる地域社会の実現に貢献していきます」と抱負を語りました。YMCAらしい温かな人間的な交わりを通して、最先端のテクノロジーを学ぶことで、誰もがテクノロジーを用いているより豊かな人生を切り拓いていくことができるよう願っています。

日本YMCA同盟 横山 由利亜

2025年度

世界YMCA／YWCA合同祈禱週 11月9日(日)～15日(土)

テーマ Jubilee: 150 Years of Prayer in Action
(仮訳)「ヨベルの年の祝祭：祈りと行動の150年」※



世界中のYMCAとYWCAが毎年11月、一つのテーマを設定して共に学び、祈りの時をもつ「合同祈禱週」。1904年から続くこの週間は今年度、11月9日～15日に実施されます。

期間中、各地のYMCA／YWCAでは祈禱会が開催されます。詳細はお近くのYMCAにお問い合わせください。

※詳しいブックレットをご覧になりたい方は、
日本YMCA同盟 (Tel 03-5637-6640) へお問い合わせください。

※「ヨベルの年」について

ヨベルは「雄羊の角笛」を意味します。ヨベルの年とは、ユダヤ教の安息年「7年周期」が7回巡った翌年の第50年目を指していて、その年の贖罪日に角笛が国中に吹き鳴らされると、すべての債務は帳消しとなり、土地は返還され、奴隷は解放されねばならない、と定められていました。この聖書の記述にちなんでジュビリー2000は、最貧国の債務帳消しを求めて1990年から世界的にキャンペーンとして広がりました。